

# はじめに

「昨日の我に飽きける人こそ上手なり」

これは、俳聖松尾芭蕉が門下の弟子たちに説いた言葉といわれています。名人への道は、今日の自分に満足せず、常に新しいものを作り続けることにより為し得るという意味で、「不易流行」の思想にも通じるところです。変わることはない不易性と絶えず進展する流行性は、相対するものと考えがちですが、実はこの二つは根本において一つです。今、教育においても、変わらないものは何か、変えていかなければいけないものは何かを改めて考える時にきているといえます。

平成26年11月の中央教育審議会において、文部科学大臣から次期学習指導要領改訂に向けた諮問が行われました。これによると、今の子どもたちが社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えると予想されています。「何を知っているか」ではなく「どんな力を身につけているか」が重要視され、その力を育むためには、教える知識の質や量だけでなく、学びの質や深まりに目を向けたアクティブ・ラーニング等の新たな学習、指導方法を充実させることが必要であると示されています。本県においても、新たな学びを意識した授業改善を進めるにあたり、先生方の実践的指導力を更に高めていくことが期待されます。

本県教職員の主たる研修機関である当教育研究所では、このような新しい時代の要求に応えるために、教職員の専門性を高める様々な研修を実施し、教えるプロとしてだけでなく学び続けるプロとしての先生方を支援しています。教職員一人一人の力量を高めることは、本県の子どもたちの豊かな学びにつながると考えます。さらに、様々な調査の結果から明らかになった本県の教育課題に対して、その解決に向けた根拠となる資料の収集や教育現場との連携による先駆的な実践研究にも取り組んでいます。

これらの取組の一つとして、本年度も当教育研究所における研究指導主事等の研究を「研究紀要」に、奈良県教育委員会指定研究員及び奈良県立教育研究所長期研修員によるプロジェクト研究・個人研究を「研究集録」にまとめました。この中には、教職員を対象とした調査や教育現場における具体的実践を通して得たデータを基に、実証的・客観的な分析によって課題の解決に迫った研究成果を多数掲載しています。これらを日々の教育活動に御活用いただくとともに、今後の研究の進展のために御意見をいただければ幸いです。

なお、本冊子の掲載内容は、紙幅の関係上、各研究論文の要約となっています。更に詳細な内容につきましては、当教育研究所のWebページにて公開しています「平成26年度研究紀要・研究集録」及び当教育研究所図書閲覧室に保管しています「研究報告書」を御覧ください。

末筆となりましたが、指定研究員及び長期研修員の皆様をはじめ、研究を進めるにあたり多大な御協力と御支援を賜りました各関係校(園)の教職員の方々に心よりお礼を申し上げます。

平成27年3月

奈良県立教育研究所  
所長 吉田育弘